

未熟児新生児科

2015年度総入院数は432人(前年比+9.4%)であった。入院の内訳は、在胎週数が未熟で出生体重の小さい超低出生体重児(出生体重1000g未満)が16人(前年度より±0人)、極低出生体重児(出生体重1000-1500g未満)が22名(前年度より-7人)、低出生体重児(出生体重2000-2500g未満)が75名であった。重症新生児仮死や遷延性肺高血圧症、胎便吸引症候群、重症新生児仮死などの出生体重2500g以上の児は229名で総入院数の73.8%であった。

総依頼件数は613件(+81件)であった。入院依頼をお断りしなければならない件数及び当センターの院内他科に入院依頼した件数は181(+44件)となった。

当センターの新生児搬送車による総出動件数は334件(+98件)であり、その内訳は、迎え搬送248件、三角搬送11件、分娩立ち会い52件、back transfer75件であった。

特殊治療としては一酸化窒素吸入療法18件、脳低温療法18件、脳平温療法34件、血液透析2件、人工換気療法211件(入院患児の48.8%)であった。

死亡数は11名で剖検率は45.5%であった。染色体異常・奇形症候群などで死亡したのは6名で、それ以外で死亡したのは5名。重症新生児仮死児が5名であった。

(清水 正樹)

スタッフ (2015年在籍)

清水正樹(部長兼科長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

菅野啓一(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

宮林 寛(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

菅野雅美(医員、日本小児科学会専門医)

川畑 建(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

長澤真由美(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

櫻井裕子(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

閑野将行(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

閑野知佳(医員、日本小児科学会専門医)

佐伯久子(医員、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

芳賀光洋(医員、日本小児科学会専門医)

苑田輝一郎(常勤の非常勤) 千葉浩介(常勤の非常勤) 古河賢太郎(常勤の非常勤) 吉田賢司(常勤の非常勤)

西野智彦(後期研修医) 森下むつみ(後期研修医) 大澤一郎(後期研修医) 平野紗智子(後期研修医)